

78名の卒業生の皆様、卒業おめでとうございます。

本来ならご父兄、ご家族や多くの来賓の方々の列席のもと、盛大に行われるはずだったのですが、新型コロナウイルスの影響でささやかな京都医療科学大学卒業式・学位記授与式となったのは、とても残念で仕方ありません。

ご家族、保護者の方々は卒業式に出席できなくても、皆様の卒業を心から喜んでいることでしょう。今日の良き日を迎えることが出来たのは、皆様自身の毎日の努力はもちろんですが、これまで20年余りに渡って深い愛情を注いで励ましてくださったご両親、ご家族、その他多くの人々の支援があったからこそです。皆様の支えてくださった多くの人々に「感謝の気持ち」を忘れないでください。

皆様は診療放射線技師の資格を持つとはいえ、まだ生まれたばかりのひとりでは歩けない赤ちゃんです。現場ではまだ何もできません。家族に育てられ、赤ちゃんから何年もかけて成長するように、これからは現場の先輩に教えてもらいながら、何年もかけて一人前の診療放射線技師に成長してゆきます。

今、世界は新型コロナウイルスの脅威にさらされています。肺炎の診断には胸部 X 線写真と胸部 CT 検査が欠かせません。毎日報道される感染者の一人一人の診断に診療放射線技師が行う X 線撮影と CT 検査が大きな役割を果たしています。皆様の先輩はそのような過酷な医療現場の最前線で働いているのです。自分自身の健康管理をしっかり行い、目の前の患者さんを救う大きな力となれるよう、日々努力を続けて下さい。

放射線の医学利用、放射線診断、放射線治療は急速に進歩しています。大学では放射線の基礎から、最先端の放射線技術まで学びました。しかし、現在の最先端の技術も、数年後には新しい技術に置き換わります。皆様はこれから50年近く診療放射線技師として仕事することになりますが、常に新しい技術を取り入れ、それをマスターし、使いこなさなければなりません。その際には困難な局面にいくつも出会いますが、それらを解決し、乗り越えてゆかねばなりません。卒業してからも一生勉強です。ただ、それでもなかなか思うようにならないものです。予定通り、計画通りには進みません。人生は挫折するものです。

「その場、その場でベストを尽くす」

しかありません。家族、友人、先輩、教師などに相談し、助けてもらい、励ましてもらいながら、頑張っってベストを尽くせば、必ず道は開けてきます。人は難しいことに挑戦して、成長することが出来るのです。

本学では、難しい問題を解決する心構え、分からないことを理解する努力などを、学んだことでしょう。4年間の大学生活で多くの友人が出来ました。さらに卒業後も、私達は学友会、あるいは学会・研究会等を通じて、これからも何度も顔を合わせるようになります。我々は仲間です。一生のつきあいなのです。

これからも生涯、本学の建学の精神

「品性を陶冶し、有為の技術者を養成することを以て目的とする」
を、心に留めておいてください。放射線医療の技術とともに品性、人間性を磨いてください。どのような仕事であれ、必ずその人の人間性が現れてきます。

「一流の人間性があるからこそ、初めて一流の仕事が出来ます。」

1927年の創設以来、本学を卒業した4千人余りの先輩、学友会が本学の大きな財産ですが、「卒業生の皆様が本学をさらに発展させる」という強い自覚と責任を持ってください。これから本学がさらに発展するかどうか、本学の将来は、皆様如何にかかっています。

卒業生の皆様が、4月からそれぞれの病院で、職場で、診療放射線技師として活躍され、社会に貢献する人材になられることを、心より期待しています。

皆さんの輝かしい新しい門出を祝福して、私の饒の言葉といたします。

令和2年3月7日

学校法人島津学園

京都医療科学大学
学長 遠藤 啓吾